

## 初期臨床研修プログラム:呼吸器外科

コース責任者:尾嶋紀洋 指導医:尾嶋紀洋

コースの位置づけ:必修科として0ヶ月、選択科として1ヶ月から

### I 一般目標(GIO: General Instructional Objective)

- (1) 呼吸器外科に必要な解剖、生理、病理組織、病態、各疾患の概念が理解できる。
- (2) 主たる検査・手術についてその手順の理解と補助ができる。
- (3) 患者とその家族を含めた周辺環境に配慮した態度・行動で説明ができる。
- (4) 保険医療のシステムを理解し、検査・治療と経済のバランスにも配慮する機会を持つ。

### II 行動目標(SBOs: Specific Behavioral Objectives)

- (1) 主たる呼吸器疾患に対し必要な問診・身体所見をとり適切な検査と治療方針の決定が行える。
- (2) 各種画像検査(X線、CT、MRI、核医学、エコー)の判読と生理機能検査(スパイロメトリー、血液ガス分析)の評価ができる。
- (3) 気管支鏡検査を中心とした術前侵襲的検査を指導医とともに検者として行うことができる。
- (4) 胸腔ドレナージを適切な評価のもと指導医とともに検者として挿入できる。
- (5) 創の縫合を行うことができる。
- (6) 術式、症例に合った周術期管理と緊急時の対応を適切に行える。

### III 学習方略(LS: Learning Strategy)

必須事項:胸痛、呼吸困難、胸部異常陰影を有する患者を診察し、所見の記載、検査計画、治療方針が立てられる。検査、処置、手術に参加する。

病棟診療:病棟の患者を受け持ち、症状の変化、検査結果を把握し、診療録に記載する。指導医のもと回診、症例カンファレンスでプレゼンテーションを行い、問題点をあげ、解決方法を提案する。

業務:予定症例、緊急症例を問わず、チームの一員として積極的に参加し、手術や気管支鏡処置を経験する。

### IV 学習評価(Ev: Evaluation)

- 知能: : 診療録、プレゼンテーション、論文など  
技能: : 診察法、手術や検査手技の技術  
態度: 指導医、コメディカルによる観察記録評価

必須事項:胸痛、呼吸困難、胸部異常陰影を有する患者を診察し、所見の記載、検査計画、治療方針が立てられる。検査、処置、手術に参加する。

病棟診療：病棟の患者を受け持ち、症状の変化、検査結果を把握し、診療録に記載する。指導医のもと回診、症例カンファレンスでプレゼンテーションを行い、問題点をあげ、解決方法を提案する。

呼吸器外科研修における週間予定（研修医の先生は基本病棟当番です）

曜日	午前	午後
月	8:30～ 回診 9:00～ 外来（病棟） 10:00～ 手術	手術（13時～）
火	8:30～ 回診 9:00～ 外来（病棟）	
水	8:30～ 回診 9:00～ 外来（病棟）	外来
木	8:30～ 回診 9:00～ 病棟	手術（13時～）
金	8:30～ 回診 9:00～ 外来（病棟）	14時～ 手術カンファレンス